

場所・面積

群馬県前橋市粕川町中之沢7、面積：42 ha

管理目的

- ・工場や道路等、その周辺環境を維持管理し、製造業を継続すること
- ・里山的環境の形成・維持により、生物多様性の保全に貢献すること
- ・森林や生き物を活用した環境教育を実施し、森林と人とをつなぐこと

サイト概要

2002年に「環境と産業の矛盾なき共存」というコンセプトの下で開設。多種の地域郷土種を約3万本植樹した他、沢筋や森林の一部を残して緑の骨格とし、植樹地でつなぐ緑のネットワークを確保。多様な水生植物や生物が生育・生息できるよう、小さな島や深さの浅い箇所と深い箇所を設けたビオトープを造成。造成から20年が経ち、植樹地も大きく育ち、広葉樹の雑木林へと発達。森林内に散策道を整備し、希少植物の保護地域や森林環境学習向けのフィールド、活動拠点となる森の教室などを設け、一般市民や各種活動団体だけでなく、学校の校外学習にも広く活用。工場敷地内の環境についてゾーニングを行い、それぞれの機能・目的を踏まえた管理を実施。これによって、工場と共存できる里山的環境を形成・維持することで、生物多様性を保全し、フクロウの住める森を目指す。



土地利用の変遷

1987年から91年にかけて、手入れのされていない人工林や耕作放棄された畑地、廃業した養鶏場跡地等を購入し、多角的に開発・活用を検討した結果、環境共存型の工場を含む事業所を造成することとなった。造成にあたっては、敷地の約半分を森林・草地とし、生物多様性保全に貢献するように設定した。造成が完成した2002年から草刈りや植栽剪定などを継続して実施し、造成から20年が経過した現在は植樹した森林も育ってきたため、年間200本以上を間伐するなどして、森林・草地を維持管理し続けている。

サイト周辺の環境

赤城山南麓に位置し、コナラ等の二次林や杉・ヒノキの人工林が多い。養豚業が盛んで、田畑も多いが、耕作放棄が目立つ。近年になって、シカ害が目立つようになった。かつて大規模な松枯れがあり、現在も規模は縮小したものの松枯れが見られる。

アピールポイント

森林の状況を把握するためのモニタリングサイト1000里山調査・指標種調査・中大型哺乳類の自主調査の実施、健全な生態系を維持するための生態系管理やアレチウリやアメリカザリガニなどの外来種駆除活動、キンランをはじめとした絶滅危惧種の保全活動、市民団体との連携による間伐作業などの森林管理と、自然や生き物に人を近づけるためのワークショップの開催、県内外の小学校の校外学習などの受け入れなどによる森林の活用とを実践している。全体の利用者は年間8000名を超える。

生物多様性の価値

価値（3）里地里山といった二次的な自然環境に特徴的な生態系が存する場

【場の概況】

赤城南麓の里山的環境で、様々な林齢の雑木林やスギ・ヒノキの人工林、2000年頃に赤城山の潜在自然植生を考慮して植樹した雑木林、草地、水質や水源の異なる3つのビオトープなどがモザイク的に混在することで、多様な環境が生み出され、それぞれに特有の生態系が成立している。

【主な植生】

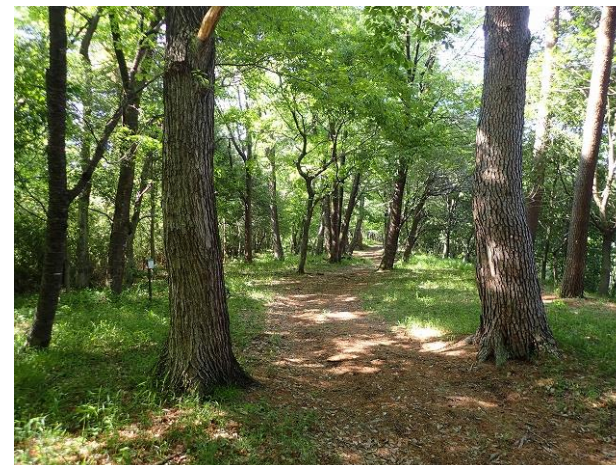
森林は、コナラ林やアカマツ林などの雑木林とスギ林やヒノキ林などの人工林がある。雑木林では、ヤマザクラやシラカシも目立つ。

草地は、チガヤやシロツメクサ、ススキが多い。

【確認された主な動植物】

それぞれの生息・生育地に以下の動植物や菌類が確認された。

- 雑木林：ニホンアナグマ（学名：*Meles anakuma*、幼獣・成獣）
カブトムシ（学名：*Trypoxylus dichotomus*、卵～成虫）
オオヒラタシデムシ（学名：*Eusilpha japonica*、幼虫・成虫）
ヤマユリ（学名：*Lilium auratum*）
ミヤマタムラソウ（学名：*Salvia lutescens*）
タマゴタケ（学名：*Amanita caesareoides*）
人工林：ニリンソウ（学名：*Anemone flaccida*）
ユキノシタ（学名：*Saxifraga stolonifera*）
ギンリョウソウ（学名：*Monotropastrum humile*）
草地：コチドリ（学名：*Charadrius dubius*、卵～成鳥）
ヒバリ（学名：*Alauda arvensis*、成鳥）
チガヤ（学名：*Imperata cylindrica*）



写真番号：1 写真の撮影年月：2022年5月8日
写真の説明：サンデンフォレスト西側の雑木林



写真番号：2 写真の撮影年月：2022年8月24日
写真の説明：草地。一部は砂利で駐車場として利用されている。

生物多様性の価値

価値（４）生態系サービスの提供の場であって、在来種を中心とした多様な動植物種からなる健全な生態系が存する場

【場の概況】

- ・健全性 在来の普通種を中心に700種以上の動植物が生息・生育している。
- ・生態系サービス
 - ＜調整＞森林による炭素固定、調整池や小段排水路による減災等の役割がある。
 - ＜文化的＞前橋市から「体験の機会の場」として認定され、レクリエーションや環境教育の拠点、学校教育機関の校外学習などの受け入れ先として機能している。

【主な植生】

森林は、コナラ林やアカマツ林などの雑木林とスギ林やヒノキ林などの人工林がある。
雑木林では、ヤマザクラやシラカシも目立つ。
草地は、チガヤやススキが多い。

【確認された主な動植物】

それぞれの生息・生育地に以下の動植物や菌類が確認された。

- 雑木林：ニホンアナグマ（学名：*Meles anakuma*、幼獣・成獣）
カブトムシ（学名：*Trypoxylus dichotomus*、卵～成虫）
オオヒラタシデムシ（学名：*Eusilpha japonica*、幼虫・成虫）
ヤマユリ（学名：*Lilium auratum*）
ミヤマタムラソウ（学名：*Salvia lutescens*）
タマゴタケ（学名：*Amanita caesareoides*）
人工林：ニリンソウ（学名：*Anemone flaccida*）
ユキノシタ（学名：*Saxifraga stolonifera*）
ギンリョウソウ（学名：*Monotropastrum humile*）
草地：コチドリ（学名：*Charadrius dubius*、卵～成鳥）
ヒバリ（学名：*Alauda arvensis*、成鳥）
チガヤ（学名：*Imperata cylindrica*）



写真番号：3 写真の撮影年月：2020年5月28日
写真の説明：東ビオトープ（調整池）



写真番号：4 写真の撮影年月：2020年4月8日
写真の説明：東ビオトープ近くに見られたジュウニヒトエ

生物多様性の価値

価値（6）希少な動植物種が生息生育している場あるいは生息生育している可能性が高い場としての価値

【場の概況】

環境省レッドリストの動植物、群馬県レッドデータブックの植物が生息・生育している。

【確認された希少種】

- ・キンラン（学名： *Cephalanthera falcata*）
環境省レッドリスト絶滅危惧Ⅱ類・群馬県レッドデータブック絶滅危惧ⅠB類
- ・オミナエシ（学名： *Patrinia scabiosifolia*）
群馬県レッドデータブック絶滅危惧Ⅱ類
- ・オオムラサキ（学名： *Sasakia charonda charonda*、卵～成虫）
環境省レッドリスト準絶滅危惧・群馬県レッドデータブック準絶滅危惧



写真番号：5 写真の撮影年月：2022年5月10日
写真の説明：サンデンフォレスト内で確認されたキンラン



写真番号：6 写真の撮影年月：2022年8月20日
写真の説明：サンデンフォレスト内で確認されたオオムラサキ

サイトの管理計画・モニタリング計画

管理計画の内容	モニタリング計画の内容
【管理計画の内容】 ・森林や草地を状態や利用、機能、将来像を考慮して、11ゾーンに区分し、各ゾーンの管理方針を定めた『森林管理計画』に則って管理を実施している。 ・森林は、生物多様性保全のために、ゾーン区分にあわせて、1～3年に一回程度の頻度で林床の草刈りを実施している。また、健全な森林の維持管理のために、地域のNPO法人や任意団体と連携して、年間200本程度の間伐を実施している。 ・草地は、草地として維持するために、年2回の草刈りを実施している。 ・散策道は、維持・整備のために年に数回の草刈りを実施している。 ・ホタル生息地において、水辺や観察路の草刈りを年に 2～3 回、水路内の落ち葉や枯れ枝の除去作業を年に 2 回、樹木や灌木の剪定を年に 1 回程度実施	【モニタリング対象】 ①②独自に選定した約100種の指標種 ③鳥類 ④ゲンジボタル、ヘイケボタル、アカガエル類卵塊、中大型哺乳類 【モニタリング場所】 ①②③主に散策道沿い ④ホタルは東と西のビオトープ周辺、アカガエル卵塊はビオトープから流れ出す小川、中大型哺乳類は雑木林内 【モニタリング手法】 ①②目視調査 ③ルートセンサス法 ④モニタリングサイト1000里地調査 【実施時期及び頻度】 ①3年毎に1度、通年で40回程度 ②月1回程度で、通年で10回程度 ③5月と11月の年2回 ④ホタル調査は5月末から7月末まで週1回程度、アカガエル卵塊調査は2月下旬から4月中旬まで週3回程度、中・大型哺乳類は通年 【実施体制】 ①地域の自然保護系NPO法人等に委託して実施 ②地域の自然観察指導員による任意団体が実施 ③地域の野鳥の会が実施 ④専属社員によって実施